

2017年 七ヶ浜音楽アウトリーチ 報告書

報告書：ジャパン・アーツ

《本事業のねらい》

アウトリーチを体験することにより、「自身の内面を発見し、肯定する」「他者の感覚に思いを馳せる」「共に生きることの素晴らしさを感じる」の3つを目標とする。さらに多様な聴き方を体験する中で感動を味わう。

《実施概要》

- 11月27日（月） 多賀城市立城南小学校
2時限（9:35～10:20）ワークショップ 6年1組 34名
3時限（10:40～11:25）ワークショップ 6年2組 36名
4時限（11:35～12:20）ワークショップ 6年3組 31名
5時限（13:25～14:10）ワークショップ 6年4組 34名
6時限（14:20～10:05）鑑賞プログラム 6年生全員
- 11月28日（火） 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校
1時限～2時限（8:35～10:15）6年2組 25名
3時限～4時限（10:40～12:20）6年1組 24名
- 11月29日（水） 七ヶ浜町立亦楽小学校
1時限～2時限（8:40～10:15）6年1組 27名
3時限～4時限（10:35～12:10）6年2組 28名
- 11月30日（木） 七ヶ浜町立汐見小学校
1時限～2時限（8:45～10:20）6年1組 39名
3時限～4時限（10:40～12:15）6年2組 38名

*参加者：仲道郁代 ファシリテーター5名 観察者1名

*活動終了後に児童と教師に対してアンケートを実施。

《内容》

1. 導入

（活動の様子）

ピアノの周りに座った児童の中から数人に、仲道氏が「あなたの好きな色は何？」と質問をする。児童がそれぞれ「水色」「赤」「紫」などと答えると、仲道氏が「では、この中で間違った答えを言った人は誰？」と質問。皆不思議そうに顔を見合わせているが、それに対して仲道氏は「間違った答えを言った人はいません。みんなそれぞれ、自分の好きな色を言ったのだから、だれも“それは間違っている”ということは言えません。自分が思うことや感じることに、“間違い”はないのです。」と言い、これからの活動の中で、自由に想像することや感じるができるように、気持ちを導いていた。



あなたの好きな色は何？

2. 鑑賞①

「革命」(ショパン)

「トロイメライ」(シューマン)

仲道氏が「革命のエチュード」の始めの部分を弾く仕草をする。(エアピアノで実際に音は出さない)そして、「どんな音が聞こえそう?」と尋ねる。児童は「激しい感じ」「勢いがある」「忙しい感じ」などと答える。そして仲道氏が実際に演奏すると、「怒っている」「暗い」「悲しい」「燃え上っている」などの意見が出た。皆、迫力ある演奏に息を呑んで聴いていた。

次に、同じように「トロイメライ」を弾く仕草をすると、「優しい」「ゆっくり」「やわらかい」などの意見が出て、実際の演奏では、「子守歌に使うような」「懐かしいような」「悲しい感じもした」などの意見が出た。仲道氏は「音の向こう側にある世界を一生懸命に聴こうとしていましたね。」と言い、改めて「心の中に感じたことに間違いは無い」ということ確認した。



エアピアノを「聴く」

(アンケートより)(文は本人の記述そのまま)

- ・「革命のエチュード」は最初、音なしでやっていただいたときに、とてもはく力を感じました。次に音ありでやってもらったときは、もっとはく力がまし、もっとすごかんじました。今まで聞いた中で一番すばらしかったです。初めて音楽のよさ、大切さを初めて知れたのでよかったです。
- ・ショパン作曲「革命のエチュード」ではいろいろと想像が出来ました。」それに迫力があり最初は「ぞくぞく」しました。2曲目のシューマン作曲「トロイメライ」では、いろいろ思わせてくれました。悲しみや喜びなど思わせてくれました。
- ・音を出さずにピアノをひく、といわれた時に、最初は意味が分かりませんでした。でも実際に聴いてみると「今どんな風にピアノをひいているんだろう。」など色々なことを想像できました。

3. ワークショップ①

「光のこどもたち」より「青い惑星」(田中カレン)

演奏する曲を、「ある1人の子どもが聴いている」という場面を想像しながら、その子が、どんなことを考えて感じているのか、思ったことを紙に記入する。児童たちは方々に散らばって、それぞれペンを持って紙と向き合いながら曲に耳を澄ます。なかなかペンが進まない児童もいるため、仲道氏は何度か繰り返して演奏する。

しばらくして、仲道氏は児童の所を回り、書いてあることを読み上げ、また少し演奏してみる。「本当にそう聞こえるね」と言い、また違う児童の意見を読み、少し演奏してみる。児童たちは、自分の想像したことだけではなく、他の児童が想像した事にも耳を傾け、演奏される曲に集中していた。



バラバラになって書く

【児童の記述より】

- ・幼稚園児から小学生くらいの子が聞いている。悲しい気持ちになって泣きそうになっている。この曲を聞いて色々な事を思い出して、なみだがでそうになっている。帰り道や自分の部屋できいている。やさしく、語りかけてくるような曲なので、ためこんでいた悲しい気持ちがあふれでてくる。
- ・男の子が悲しんでいる様子、何もなくて(草原)空を見ている、自分の未来や家族のことを考えている。

- ・やさしい、かなしい、切ない、おだやか、落ちついている、一人ぼっち、なやんでいる、だれも自分に気づかない、つらいことを思い出している。夜に一人で歩いている。
- ・ほんわかした気持ち。ゆったり、やさしい気持ち。それでも少し悲しい気持ち、何が悲しいかよくわからない。前のことを思い出していそう。男の子。青い空でしばふがあるところで横になりながらきいていそう。1人できいている。ぼーっとしていきながらきいている。空にはとりがとんでいる。
- ・悲しい気持ち。夜に空をながめている。

(アンケートより)

- ・次にやった男の子を表現するのでもメロディーで無限の可能性があって面白かったです。自分は「7才位の男の子が夕ぐれ頃に野原の花畑で一人ぼっち、母さんを泣きながらさがしている」や、「14才位の男の子が受験のことで厳しく言われ、親と不仲になってしまった」などを考えました。

4. ワークショップ②

さらに、同じ曲（「光のこどもたち」より「青い惑星」(田中カレン)）を聴いて、「数字／1・2・3・4・5」の中から「自分の気持ちにぴったりくる数字」を選び、配られた小さな紙に記入する。同じ数字を選んだ児童たちがファシリテーターと共にグループになって、なぜそう感じたのか、意見を出し合う。その間、仲道氏がグループを回り、意見を聞く。その後、グループごとに意見を発表し合う。続いて「色／白・黄・緑・赤・青」「味覚／甘い・苦い・しょっぱい・からい・すっぱい」についても同じことを行った。



児童の意見を引き出す。

【数字】 (児童の発言より)

- 「1」
- ・5が一番強いから、1だと思う。
 - ・初めての世界。音がゆっくりだから。
 - ・希望って言うスタートダッシュの感じ。
 - ・一つのことを伝えたい。
 - ・スタート地点にいて、悲しいことが1番多くてという感じ。
- 「2」
- ・2がちょうどいい。やさしい。
 - ・2は柔らかい。
 - ・悲しい、おとなしそう。
 - ・冷静で清々しい。
 - ・穏やかな気持ちと寂しい気持ちの2つが合わさっているから。
- 「3」
- ・やさしい、さみしい、悲しい、が一番ぴったり。
 - ・卒業する時に流れている感じ。
 - ・丸い感じ。
 - ・素数のイメージ。
 - ・ふわっとしていて、曲もふわっとしている。丸みを帯びている。
- 「4」
- ・1は暗い。5は明るい。4がちょうどいい。偶数な感じ。
 - ・4月のイメージ。4が春っぽいから。何となく。
 - ・4月に聴いていそう。



私はこう思いました。

- ・ 1 2 3 はよく使われている。4 は目立たないから。
- 「5」
 - ・ 5 が一番さびしい感じだから。
 - ・ 3 とか 4 は優しい感じだから 5。
 - ・ ラストの場面みたいな。

【色】

- 「白」
 - ・ 誰もいなくて寂しい感じ。
 - ・ 雪のイメージ（音がきれいだったので）
 - ・ 白が優しい感じ。
 - ・ 見渡すと全部真っ白。ひとりポツンという。
 - ・ 色の無い世界。
- 「黄色」
 - ・ 赤、青、緑は強い感じ。白は色が無いから黄色にした。
 - ・ 夜空に満月。それがとても黄色いから。
 - ・ 曲のイメージが優しく包んでくれる太陽とか月のイメージ。濃いよりは薄い。
 - ・ 黄色は優しさとかの感情。希望のイメージ。
- 「緑」
 - ・ 草原、森の中に 1 人でのいる感じ。
 - ・ さわやかな感じ。
 - ・ 地平線に緑。
 - ・ 朝の森。もやがかかっている。
 - ・ 曲の奥に緑色の野原が見える。
- 「赤」
 - ・ 炎みたいで温かそう。
 - ・ 戦争で火が燃えている感じ。
 - ・ 悲しい気持ちと希望の色。強い感じ。
 - ・ 映画で炎がスローモーションで映っている時のバックで流れている。
 - ・ キャンプファイヤーを思いだした。
- 「青」
 - ・ 川の流れ。雨の色。悲しい、海の青。
 - ・ 何となく悲しい。白に濃い青が入っていく感じ。
 - ・ 深海。涙。
 - ・ 気持ちがブルー。涙の色が青。
 - ・ 明るい空の青。暗いところもあったので、曇ったりしている。



ぼくはこう思いました。

【味】

- 「甘い」
 - ・ しっとりとしていて、とろける感じ。
 - ・ 音が優しくかった。曲がふわふわしていてバター飴みたい。
 - ・ 甘いものを食べてリラックスした感じ。
 - ・ チョコレートみたいに、甘いけどちょっと苦さも混ざっていたりという感じ。
 - ・ さっきの革命は辛いけど、これは甘い。
- 「苦い」
 - ・ 本命も義理チョコももらえなくて苦い思い出。
 - ・ 音に暗さがあって、苦さの中に真実がある。
 - ・ 悲しい感じだから、「甘い」はない。
 - ・ 友達とけんかしたりした時の苦さ。
 - ・ 「苦い」は理不尽な感じ。



ぼくはこう感じたよ。

- ・満月見ている、苦い思い出が蘇った。

「しょっぱい」・くやしきのしょっぱさ。

- ・白ご飯に塩をかけて食べるみたいな。
- ・泣いていて、涙はしょっぱい。
- ・涙。失恋。
- ・部屋で一人ぼっちで膝をかかえて涙。

「からい」

- ・血が出ている感じ。
- ・ピリ辛。唐辛子、野菜の辛味。
- ・ピアノを弾いている人が怒っていてそれを鎮める感じ。

「すっぱい」・たまに高い音が、梅干しのキーンという感じ。

- ・すっぱいの中に甘い、しょっぱいがある。
- ・最後の方で、スーッと収まる感じ。
- ・梅干しじゃなくてレモン。
- ・ひとりしているとすっぱい感じ。
- ・小さいころの思い出。甘酸っぱい感じ。



みんなで話し合い。

(アンケートより)

- ・音楽を通して、想像力を広げるとともに、自分の感じたことを言葉にして伝えることで、他者理解を深めることができたと思います。私自身子どもたちの新たな一面を発見することができ、とてもおもしろかったです。子どもたちが互いの想像したことを、しっかりと認めている場面も多く見られ、良かったと思います。(教員)
- ・学校教育とは、概して「正解探し」のなりがちです。子どもたちも前に立つ教員のふるまいや発言を感じとり、「正解」は何か？ 大人が求めているものは何か？を真剣に探します。しかし、今後の子どもたちの行く末を考えたときに、必ずしも正解がない問題ばかりにぶつかります。探しても見つからない答えを求めて、疲れ、自分が分からなくなる大人を生み出さないことが、今後学校教育に求められる1つの大きな使命だと思います。「1人1人の感じ方がちがうこと」「自分の感じ方、考え方に自信をもつこと」それこそが、これからの社会を生き抜く必要条件になってくると思います。音楽を通して、自己理解、自己肯定感を深めていくこの取り組みは、学校教育でも行っていきたいなと思いました。(教員)
- ・同じ曲なのに、色を思いうかべたときと、味をうかべたとき、数字をあらわしたときで、全然ちがうと思いました。
- ・一つの曲でも、見かたが違うと、いろいろ想像することができるということに気づきました。
- ・このアウトリーチを受けて、ゲームのとき考える気持ちは他人とちがっても、はずかしくないことが分かりました。
- ・同じ曲を聞いているのに、数字、色、味いろんな事が分かると思いました。同じ曲を聞いているのに、いろんな事が分かったので音楽はすごいと思ったし、ふしぎだと思いました。
- ・一つの曲をみんなで同じように聴いてどのように感じたかという問題で、私は悲しい感じかなと思ったけど、友達は夢を見ているような感じといったので、やっぱり人によって感じ方はちがうのだなと思いました。でもそのあと友達に言われたような感じで、もう一度聴くと、夢を見ているような感じにもなって、音楽はおもしろいと思いました。
- ・音楽だけなのに、そのふうけいが頭にかんできて、それにゲームのとき、音楽は同じなのにさっききたときとふうけいがちがっていたりして、すごく楽しかったし、かんどうしました。

4.鑑賞②

「英雄ポロネーズ」(ショパン)

ノクターン第20番嬰ハ短調

演奏の前に、ショパンが作曲した当時の時代背景やその心情、ポーランドの人々の思いについての話を仲道氏が語る。ここまでの活動から、児童たちの「音楽を聴く」ということが意識化されてきているため、最後の演奏ではそれまでの受動的な態度ではなく、聴いて何かを感じようとする能動的な態度であった。



迫力あって、すごいなあ！

(アンケートより)

- ・迫力があり、CDとはちがい、ピアノで聞いた方が楽しく感じました。
- ・ぼくは仲道さんのえんそうを聞いてわかったことは、CDやテレビなどで聞くのとは格の差がちがうと思いました。音楽の楽しさが分かった。
- ・最後に生演奏を聴けてとても感動しました。ショパンのその時のかつとうや思いがああ曲にあふれているような気がしました。
- ・初めて生でピアニストのえんそうを見ました。すごく心がこもっていて、迫力のあるえんそうでした。音楽にはすごい力があるのだなと思いました。
- ・仲道さんがピアノをひくと、その音楽にある思いがよく分かりました。音楽の楽しさに気づいた。
- ・CDとはちがってピアノの方が気持ちが伝わってきた。悲しい音楽や楽しそうな音楽、強弱がはっきりしていた。この演奏を聞いて、初めてピアノに興味を持った。
- ・最後にきいた2曲はとてもかんどうしました。今日は本当にありがとうございました。最高の90分間でした。

《まとめ》

「音楽からあんなにたくさんの想像ができるんだなと思ってびっくりしました。スマホなどで聞く音楽とピアノで生演奏する音楽は全くちがう感じで生演奏の方が色々な事が音楽にこもっていて、少しだけ、伝わってきた気がしました。」

「音楽は音だけを聴く物でないことが分かりました。みんな同じ音楽を聴いているけど、人それぞれ、その音楽のとらえ方がちがうことが分かりました。音楽は人の悲しい、うれしい、さびし、いかりなどの気持ちを表現していたり、その曲から自分の新しい感情が生まれることが分かりました。そして音楽は、私達の近くにある物であり、人間や他の動物の気持ちを変化させる物なのかなあと思いました。」

これは児童が記入したアンケートの文章であるが、今回のアウトリーチの特徴と成果を物語っている。今の子どもたちは、環境の変化とともに音楽との関わり方が大きく変化しており、小さなスマホから流れてくる音楽を聴く環境も日常的なものとなっている。そんな彼らにとって今回のアウトリーチは、本物に触れて音楽を聴く楽しさを知るきっかけとなっただけでなく、わくわくするような意欲的な心も生み出している。国が目指す「生きる力」を身に付けていくためには、感動する心も必要であると考えられており、それが学習意欲や向上心を育むのである。今回の活動は、生きる力の育成にも資するものであると考えられる。

「ぼくは今日のアウトリーチでしようらいついた仕事を極めて、その世界で有名になれるように努力をしたいと思いました。」「これを機に、音楽にもっと関わり、1つ1つ目いっぱい味わいたいです。」「仲道さんみたいに、はくりよくのある曲を演奏できるようにめざしたいです。」「私も仲道さんみたいにすごい曲を演奏できるようにがんばります。」「もっといろいろな曲を聞きたいと思いました。これからも、曲を聞いているとき考えながら聞こうと思います。」「ぼくも郁代さんみたいに演奏がうまくなっていきます。」「とても心に残った演奏でした。ぼくは、みんなを泣かせられるような演奏をしたいです。」

前回のアウトリーチでも行われた「多様な観点から聴く」ワークショップは、今回はさらに効果的なものとな

り、多くの想像力や、それを表現する言葉が引き出されている。最初の導入で、「好きな色を答えた人に間違いは無い」というやりとりによって、思った事をためらうことなく表現する方向に導かれ、自分の心と向き合いながら、一生懸命に考え、様々な感じ方を楽しみ、さらに他者の感じ方に触れ、多様な感覚を受け入れることができた。教師も、「子どもたちが互いの想像したことを、しっかりと認めている場面も多く見られ、良かった」と評価しており、次期学習指導要領の柱となるアクティブ・ラーニングのプログラムとしても高い評価を得るだろうと思われるが、何と云っても仲道氏の本物の演奏が、子どもたちの心を動かしたということが大きい。仲道氏の熱意がしっかりと子どもたちの心の中に届いた、素晴らしいアウトリーチであった。

(報告／和洋女子大学 鈴木香代子)

【助成対象経費報告(一行：5名)】

移動費 (東京・仙台往復) : 99,970 円

@22,200 円×3名 = 66,600 円

@22,370 円×1名 = 22,370 円

@11,000 円×1名 = 11,000 円*東京・仙台片道

宿泊費 (ホテルキャッスルプラザ多賀城) : 132,840 円 (消費税込)

@10,044 円×1名×4泊 = 40,176 円

@ 7,128 円×3名×4泊 = 85,536 円

@ 7,128 円×1名×1泊 = 7,128 円

ピアノ調律経費 : 151,200 円

合計 : 361,640 円 (うち支援対象経費 300,000 円)